

【前回】新潟市総合計画について

答 申

平成26年10月6日

新潟市総合計画審議会

答 申

平成26年10月6日

新潟市総合計画審議会

新潟市が本州日本海側初となる政令指定都市移行を平成19年に成し遂げてから7年半が経過しました。その間、平成20年のリーマンショックや平成23年の3.11大震災の発生など、当初想定しなかった環境変化に対応しながら、拠点性を活かした取組みや、市民が市政に参画するための仕組みの構築など、市民と共に進めたまちづくりにより、政令指定都市としての基盤は整ったものと認識しています。

今後、我が国は少子・高齢化の急激な進行による本格的な人口減少時代を迎え、自治体を取り巻く環境も大きく変わることが予想され、私たちの新潟市も例外ではありません。

次期総合計画「にいがた未来ビジョン」は、新潟市におけるこのような激動の時代環境の中において、私たち一人ひとりの市民が明るい未来に向かうための、いわば羅針盤ともいえる計画です。

本審議会は、平成26年6月24日、総合計画素案の諮問を受け、4つの部会を設置し、各部会、部会長会議及び全体会において、これまで延べ20回にわたり、専門的な見地や地域、市民としての立場から審議を重ねてきました。

審議にあたっては、新潟市におけるこれまでのまちづくりの現状と課題に加え、自然や文化、地理的条件、産業構造などの新潟市の特性や、メガトレンドである人口減少、少子・高齢化の進行など国全体を取り巻く状況を踏まえることを前提としました。

その上で、安心・安全な暮らしの実現，国や県における新潟市の果たすべき役割などについて，目指すべき方向を的確に捉えたものとなっているかという視点に立ち，慎重かつ活発な議論を行ってきました。

さらに，市民と共有できるわかりやすい表現・構成となっているか，市民の立場に立った計画となっているかという観点からの検討を加えたところです。

審議の結果，「にいがた未来ビジョン」素案は，新潟市の次期総合計画としてふさわしい内容であると考えます。

なお，計画の実施にあたっては，基本構想で掲げた
「地域・田園・自然の力を活かし，健康で安心に暮らせるまちづくり」
「日本海開港都市の拠点性を活かし，創造的に発展を続けるまちづくり」
という2つのまちづくりの理念のもと，
「市民と地域が学び高め合う，安心協働都市」
「田園と都市が織りなす，環境健康都市」
「日本海拠点の活力を世界とつなぐ，創造交流都市」
という3つの都市像の実現に向け，市民と行政が力を合わせ，市民生活の向上に努めるよう要請します。

また，厳しい人口減少，少子・超高齢社会においても，新潟市の活力を向上させるための取組みを全力で進めると同時に，次世代に過度な負担を強いることなく引き継ぐよう，持続可能なまちづくりを進め，安心して安全な市民の暮らしを実現させることを要請します。

このほか，特に留意すべき点としてまとめた以下の意見・要望について，計画に反映するよう要請します。

「にいがた未来ビジョン」素案への意見・要望

I 基本構想

1 策定趣旨

- 人口減少，少子・高齢化など我が国を取り巻く環境変化に加え，新潟市に内在する課題について，記述を検討されたい。

2 まちづくりの理念

- 新潟市の個性や強みを踏まえ，まちづくりの理念がさらに明らかになるよう詳述されたい。
- まちづくりの理念と都市像との関連についてわかりやすくなるよう，詳述されたい。

3 目指す都市像

都市像 I 市民と地域が学び高め合う，安心協働都市

- 人権尊重と男女共同参画社会の実現により，性別や年齢に関わらず安心して暮らせる社会という視点について，配慮されたい。
- 「将来を担う子どもたちを取り巻く環境」について，「子どもを取り巻く環境」という視点を含め，表現を検討されたい。

- 多様な生き方を選択できるという視点から、「結婚」や「希望する人数の子ども」など、個人の生き方を規律するような表現について、検討されたい。
- 市民の安心・安全な暮らしを実現することはもとより、多くの人材が新潟市から育ち世界で活躍することや、さまざまな人材が新潟市に集うことが活力あるまちを創り上げていくことを記述されたい。

都市像Ⅲ 日本海拠点の活力を世界とつなぐ、創造交流都市

- 新潟市の個性と拠点性が活かされることで、振興・発展が見込まれる産業が生まれ育っているという姿が伝わるよう、表現を検討されたい。
- 魅力的な産業の創出に関して、農業と食に関する産業に限らず、さまざまな産業が生まれ育つ姿が伝わるよう、表現を検討されたい。

Ⅱ 基本計画

1 総論

(1) 土地利用方針

- 「現状と課題」と「方針」との関連について、整理し記述されたい。
- 「現状と課題」における「都心」について、よりわかりやすく記述されたい。
- 「現状と課題」における「市街地形態の維持」と「田園機能の保全」の関係性や、「自然環境やまちの利便性などお互いが恵みあう共生関係」について、わかりやすい記述を検討されたい。
- 多核連携型都市にかかる説明図及び方針について、連携軸を強化するうえで各区が相互に連携すべき具体例を挙げるなど、よりわかりやすくなるよう配慮されたい。
- 人口減少時代において、市街地規模のあり方については拡大を抑制するという観点から検討されたい。

(2) 行政運営方針

- 行政運営方針は、目指す都市像を実践するために取り組む施策を効果的に進めるために重要な部分であるため、わかりやすさに配慮しつつ、さらに詳述されたい。
- 「公共施設」と「インフラ資産」の維持・更新について、現状と課題を明確に示す図表や記述について配慮されたい。
- 財政運営にあたっては、行政コストや将来負担など、市民と情報を共有したうえで行政資源を最適に配分することが重要であり、この点に配慮されたい。

- 「大都市制度」という言葉の意味や、それに関する記載について、さらにわかりやすくなるよう記述を検討されたい。
- 効率的で質の高い行政サービスを提供し続ける観点から、他自治体と広域的に連携し、協働で対処していく体制を構築することに配慮されたい。

2 政策・施策プラン

(1) 市民と地域が学び高め合う、安心協働都市

政策① ずっと安心して暮らせるまち

《現状と課題》

- ひきこもりの方など生活に困難を抱える方に関する現状と課題について、記述の追加を検討されたい。

《施策》

- 生活困窮者への支援に関し、市の担うセーフティネットとしての役割は重要であるため、その充実に配慮されたい。
- 「医療・介護のネットワーク形成」について、地域を支える人材と専門性を持った人材、両方の観点から人材育成を図られたい。
- 基幹病院とかかりつけ医の役割分担や、在宅医療の推進などにより、必要な人が必要な医療を受けられることが重要であり、救急体制を充実されたい。

政策② 子どもを安心して産み育てられるまち

《 8年後の姿 》

- 多様な家族形態の中においても，子どもが安心して育つことのできる環境が整っているという姿を示されたい。
- 出生率が増加し，子どもが多く活気あるまちになるためには，子どものいる女性が安心して働けるよう，男女ともに仕事と子育てを両立できる環境づくりが重要であることから，記述について配慮されたい。

《 施策 》

- 子どもの医療体制については，子育てに関する大きな不安となっているため，医療への支援について追記されたい。
- 子育てを社会全体で支える重要性がさらに高まることから，地域力・市民力をあげて支援することについて配慮されたい。

政策③ 学・社・民の融合による教育を推進するまち

《 8年後の姿 》

- 「学力・体力」だけが子どもの自信につながる訳ではないことから，「自分の力に自信をもち」という表現に修正されたい。

《 施策 》

- 地域に対する愛着や地域を愛する心を育むという視点について，配慮されたい。
- さまざまな「大人像」を示すため，キャリア教育の推進について，記述を検討されたい。
- 若者の人口流出抑制のための支援がまちの活性化につながるという視点を加えて，記述を検討されたい。

政策④ 地域力・市民力が伸びるまち

《施策》

- ボランティアなどの人材育成を支援する視点や、ボランティアを協働の相手とする視点について、記述を検討されたい。

(2) 田園と都市が織りなす、環境健康都市

政策⑤ 地域資源を活かすまち

《8年後の姿》

- 「地域資源」について、具体例を挙げ、わかりやすく記述されたい。

《現状と課題》

- 新潟市の魅力を向上させるうえで「食」は重要と考えられるため、表現についてさらに工夫されたい。
- 新潟市の魅力について市民や市外の方の意見を踏まえる必要があることから、十分検討されたい。
- 若年無業者やひきこもりの方に対して、農業体験などが自立に向けた第一歩になるという認識と、施策とのつながりがわかりにくいいため、記述を検討されたい。

《施策》

- 農業を核にさまざまな産業が結び付き、新しい価値を創り出す取組みについては、「12次産業」といった象徴的な言葉を明記されたい。
- 「地域の個性、歴史、文化に根ざしたまちづくり」を進めることで定住人口の増加につながることをイメージできるよう、表現を検討されたい。

政策⑥ 人と環境にやさしいにぎわうまち

《現状と課題》

- 若い世代の学業を理由とした転出の多いことが課題であることを示すため、図表を追加するなど検討されたい。

《施策》

- 湊町文化は奥深く幅広いものであることから、単に花街との認識にならないよう配慮されたい。
- 「都心軸リノベーションの実現」について、具体的内容を記述するなど、わかりやすくなるよう、表現を検討されたい。
- バスだけでなく、鉄道も含めた公共交通利用者の減少により、自動車に依存しているまちとなっていることがわかるよう配慮されたい。
- 公共交通体系の構築にあたっては、既存の公共交通であるバスや鉄道に関する視点についても考慮されたい。
- 超高齢社会の進行を見据えて、市民の移動手段をどのように確保していくかという点に配慮されたい。

政策⑦ 誰もがそれぞれにふさわしい働き方ができるまち

- 生産年齢人口が減少していくなかにおいては、高齢者の社会参画を促進し、意欲ある高齢者がさまざまな知識や職能を活かして働くことができる環境づくりが重要であり、この点について考慮されたい。

《8年後の姿》

- 「さまざまな産業、農業など」という表現について、農業をはじめとする新潟市の強みが働き方にもつながっている姿を示すよう、記述を工夫されたい。
- 「誰もが」それぞれにふさわしい働き方ができ、社会で自己実現を果たしている姿を示し、記述されたい。

《現状と課題》

- 女性の就業率が高いことと、女性が働きやすい環境が整っていることとの関係が不明であり、再考されたい。

《施策》

- 「女性」と「若者」の問題や、「障がいのある人」と「ひきこもりなど生活に困難を抱えた人」の問題は、解決に向けた取組みが異なると思われるため、それぞれ項目を分けてわかりやすくされたい。

(3) 日本海拠点の活力を世界とつなぐ、創造交流都市

政策⑧ 役割を果たし成長する拠点

《施策》

- ニューフードバレーを推進するうえでも、既存農業の経営基盤強化や担い手育成が不可欠であるという点について配慮されたい。
- 環日本海ゲートウェイ機能の強化を図る道路網について、わかりやすくなるよう表現を工夫されたい。
- 日本海国土軸の形成に向けて、港や空港、鉄道、道路の機能強化により拠点性の向上を図られたい。

政策⑨ 雇用が生まれ活力があふれる拠点

《8年後の姿》

- 働きがいのもてる「魅力的な雇用の場」について、記述されたい。

《現状と課題》

- 新潟市が航空機産業やニューフードバレーを成長産業として育成するに至った経緯を明示されたい。

《 施策 》

- ニューフードバレーや航空機産業などの新たな産業が成長することが、他のさまざまな産業分野に波及するということを記述されたい。
- 若者の人口流出を抑制するためには、市内の高等教育機関の強みと市の施策を連携させた新たな産業領域の開拓が重要であることから、産学官連携について十分配慮されたい。
- 創業支援が雇用の安定に結び付くことについて、わかりやすくなるよう表現を工夫されたい。

政策⑩ 魅力を活かした交流拠点

《 8年後の姿 》

- 日本一の大河とそれに育まれた「水と土」が新潟市のアイデンティティと考えられるため、具体的に記述されたい。

《 施策 》

- 交流人口の拡大は重要な視点であることから、都市としての魅力の発信力向上に十分取り組まれたい。
- 新潟市が誇る「食文化」について、より分かりやすくなるよう配慮されたい。
- 田園と湊町が育んできた歴史・文化といった新潟市独自の魅力について、追記されたい。

3 区ビジョン基本方針

- 総合計画における区ビジョン基本方針の位置付けや役割を明確化されたい。

IV おわりに

総合計画に基づく施策の実施にあたっては、各政策で目指す８年後の姿の実現に向けて着実な遂行を図るとともに、本審議会において出された意見・要望を十分尊重することを要請します。